

リュウキュウヤマガメの繁殖

○桐生大輔

(公益財団法人横浜市緑の協会 横浜市立野毛山動物園)

野毛山動物園では2005年2月から文化財保護法違反により摘発されたリュウキュウヤマガメの雄を2頭飼育していた。2012年2月の摘発によって雄1頭雌2頭が、2013年6月にも雌1頭が入園し、雄3頭雌3頭となり、雌雄がそろった。そこで飼育繁殖技術を確立するために、繁殖を目的とした飼育に取り組んだところ、2014年11月に子ガメが孵化したので報告する。

2012年2月より2014年7月までは幅5cm×奥行40cm×高さ35cmの衣装ケースで1頭ずつ飼育し、2014年7月からは幅110cm×奥行160cmの展示場にて雌3頭を飼育した。

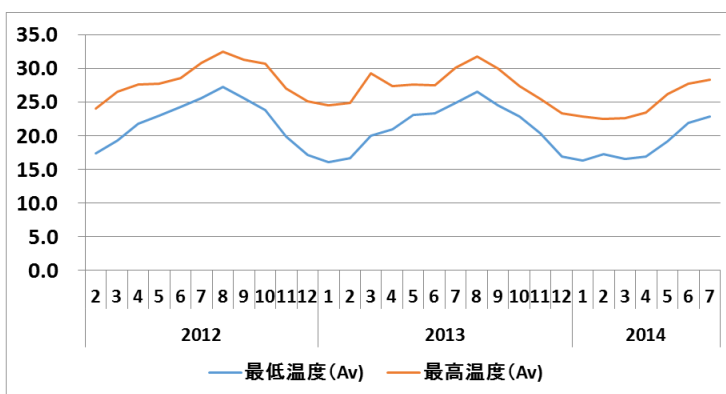


2012年2月～2014年7月



2014年7月～

餌は週3回、果物、各種ペレット、小松菜、馬肉、オキアミなどにカルシウム剤やビタミン剤を適量添加して給餌した。飼育温度を生息地の気候に合わせて、時期的に変化をつけることにより繁殖行動への刺激とした。



2012年、2013年とも交尾やマウントを確認し、2012年には2個の産卵があったが子ガメは孵化せず、2013年10月には交尾を行っていた雄個体が死亡した。その後、2014年7月7日にリニューアルした爬虫類館に雌3頭を移動したところ、7月24日に1個、8月25日に2個の産卵を確認した。7月24日の卵はすでに破卵していたが、8月25日産卵の卵を28℃、湿度80%の条件で人工孵卵を試みた結果、1頭が77日間で孵化した。



子ガメは幅 20cm×奥行 35cm×高さ 35cm の水槽で飼育した。床材には発酵チップを使用し、爬虫類専用の紫外線ライトと体を温めるためのスポットライトも設置した。初期飼料にはダンゴムシ、ミミズ、ナメクジを与え、その後果汁、果物ペースト、サナギ粉、カルシウム剤、ビタミン剤を練り合わせたものやデュピア（ゴキブリ）を給餌、9 ヶ月より成体と同じ内容の餌を給餌しており、現在も順調に生育している。



完全な室内飼育において、環境温度に変化を付けたことが繁殖成功につながったと考えられる。